



〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000

発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆,
編集責任者: 広報委員長 中村 雅典



平成30年度卒業式および学位記授与式が開催されました

歯学部長 榎 宏太郎



令和元年度昭和大学卒業式が、3月18日(水)午前10時からパシフィコ横浜「国立大ホール」において厳粛に執り行われました。今年度の卒業生は、医学部(88回生)112名、歯学部(38回生)92名、薬学部(52回生)167名、保健医療学部(20回生)157名の合計528名でした。当日は、少し肌寒さはあるものの、清々しい快晴に恵まれ、空の青さと海の青さが鮮やかな記憶として残る日となりました。

コロナウイルス感染防止のため、御父兄の参加と在校生の祝福は見合わせて頂き、広いホールに一つおきに着席のうえで式の進行も簡素化して執り行われました。

開式の宣言後に校歌を斉唱し、その後に厳かな雰囲気の中、久光学長より、各学部総代の学生に学位記が授与されました。

続いて、久光学長の告示では、サミュエル・ウルマンの詩を引用され、「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言う。創造力、意志、情熱、冒険心が青春である。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いる。」という素晴らしいお話をされました。まさに、巣立つ学生諸氏に教職員全員が伝えたい内容でした。

そして、小口理事長から、「真心と病む人々への慈しみを持ち続けることを忘れず、医療人として生きることへの誇りを胸に持ち続けるように」との力強い御祝辞を頂きました。それぞれの6年間、4年間の学生生活を終えるにあたり、本学の最も大切な教を心に刻むことができたものと思われま

す。その後、上條賞が家泉裕香さんへ授与されました。同窓会賞は野田和幸君、西田訓子さん、渡辺匡崇君に贈られました。上條旗ヶ丘賞は、田上理沙子さんへ、最優秀スチューデントインストラクター賞は杉本真子さんに贈られました。

続いて、父兄会の與儀会長から祝辞と共に記念品を賜りました。

在校生代表として徳増梨乃さんから若々しい未来を期待される送辞のあと、薬学部の江部靖弘君が、卒業生を代表して本学で学んだことを最大に活かして医療人として活躍することを誓う答辞を返されました。

そして、出席者全員が卒業生代表の渡邊晋平君のリードのもと「昭和大学宣言」を高らかに唱和し、閉式となりました。

隣接のパシフィコ横浜「アネックスホール」にて行われた学位伝達式では、歯学部長挨拶の後に、各人に学位記が授与されました。

続いて、学生表彰の賞状と盾がそれぞれの受賞者に手渡されました。

小原同窓会長からもご挨拶を頂き、前述の方々へ同窓会賞表彰が授与されました。

特別表彰として、歯科医学生賞:南えりかさん、教育委員長賞:前島康平君、学生部長賞:今坂佳奈さん、デンツプライ賞:斎藤藍さん、モリタ補綴賞:興石悠介君、フィリップス賞:酒井敦史君、ストローマンアワード:渋谷俊輔君、日本小児歯科学会学生優秀賞:三木優君、最優秀グループ賞:Bグループ(家泉裕香、秋葉千晶、高野真優、武市莉々佳、吉田裕栄さん)が表彰されました。

続いて、マルチドクタープログラム修了証が高見正道歯学研究科長より授与され、卒業生を代表して北島弘朗君から卒業生記念品目録が贈呈されました。最後に、飯島教育委員長からご挨拶を頂き、閉会を迎えました。

最後に、コロナウイルスにより開催が危ぶまれましたが、やはり、卒業式と学位記伝達式は挙行されて良かった、というのが正直な印象です。

卒業生諸君は、六年間、見事な戦いぶりでした。

皆さんと学問できたことを誇りに思います。

皆さんの今後の益々の発展と実り多き人生を祈念致します。

新型コロナウイルスに伴う今後の授業体制の変更について

教育委員長 飯島 毅彦

COVID-19の感染拡大に伴い、昭和大学は全学で4月一杯まで臨床実習を中止という方針を決定し、3月4日(水)より施行されました。これに伴い、旧D5の臨床実習の残り3日間、新D5の臨床実習1(D4のカリキュラムに含まれるもの)および臨床実習2、新D6の選択実習が中止となりました。新D6はすでに海外実習、国内学外実習は中止となっていました。学内実習もすべて中止ということになりました。臨床実習の中止が指示された後、感染のオーバーシュートの懸念が高まったことを受けて新年度の開始を4月20日(月)に延期することとなりました(現在、4月4日時点)。このため、臨床実習だけでなく基礎実習、講義も全て中止となったため、カリキュラムを再編成することになりました。すべてのユニットで授業時間の圧縮をしなければなりません。現在、各ユニットで最低限に必要な授業時間を算定し、学年ごとに4月20日開講、5月初め開講、6月初め開講を想定した流動的なカリキュラムを編成しているところです。一方では、外出を自粛している学生に遠隔的な履修の方法を早急に整える必要があります。配信する教材の作成方法、配信方法を決定し、4月6日の教育委員会で通知し、直ちに作業に入る予定です。今後最も懸念されるのは実際に病院での実習が必要であり、代替授業ができないD5の臨床実習です。臨床実習は実習時間を減らさず確保したいのですが、現段階では、5月始まりを想定して、これまで1クール10週間であったものを1クール9週間と想定しています。1週間少なくなります。すでに各講座ではその時間内に十分な実習が行われるように調整をいただいています。ここ数年、学生の学修にアクティブラーニングを取り入れることが検討されています。現在、履修内容は多岐にわたり年々刷新されています。授業で全てを伝えることは困難であり、教科書を用いて自分で理解を深めることが必要です。今年からD2、D3、D4では教科書の所持を広げるために、教員には必携教科書の選定をしていただき、保護者に教科書の購入案内を出すようにしました。このような学生が自習をしなければならない情勢を利用してアクティブラーニングの習慣づけを進めていただきたいと思います。

大学生の生活は毎朝登校する規則正しいリズムで成り立っています。このような緊急事態の中でも学生に規則正しい学習を提供することはなかなか困難です。各講座におかれましては学生が在宅でも十分に学修できるようにご検討をお願いいたします。

令和元年度大学院修了式が挙行されました

歯学研究科長 高見 正道



令和2年3月24日午後4時より、令和元年度大学院修了式が昭和大学上條記念館において挙行されました。今回は新型コロナウイルス対策のため、ご父母は不参加となったため、修了生と大学関係者により時間も短縮されて開催されました。最初に久光学長より学位記が各研究科の代表に手渡されました。今回は、医学研究科28名、歯学研究科20名、薬学研究科12名に博士の学位が、保健医療学研究科11名に修士、1名に博士の学位が授与されました。歯学研究科の上條賞は歯科薬理学の畔津佑季さんが受賞しました。

久光学長の告辞と小口理事長の祝辞に続いて各研究科長が挨拶し、歯学研究科長の私は「今後も自ら海外留学などの不安な状況に身を投じることにより、世界に通用する研究者として成長して欲しい」と述べました。

昭和大学宣言と校歌斉唱の後、修了者に研究科長から学位記が一人ずつ手渡され、修了生と記念撮影をおこないました。博士となられた修了生の皆さん、今後の活躍を大いに期待しています。

選抜Ⅱ期入試が行われました

入試支援課 阿部 萌子

令和2年度歯学部一般選抜入試Ⅱ期が3月8日(日)に、旗の台キャンパス4号館にて、薬学部、保健医療学部と3学部合同で実施されました。

今年度の志願者数は、一般選抜入試Ⅱ期(8名募集)に152名とたくさんの方から出願がありました。

試験当日はあいにくの雨模様でしたが、交通機関等の乱れや各試験場等の大きなトラブルもなく終了することができました。学力試験に続き、面接試験の運営業務にご協力を賜りました教職員の皆さまに心から御礼申し上げます。

そして、3月10日(火)午後3時に一般選抜入試Ⅱ期の合格者8名(男3名、女5名)を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。

これをもちまして、令和2年度入学試験の全日程が無事に終了いたしました。ご多忙の中、春の入試広報活動から始まり、ご協力賜りました教職員の皆様には、心から厚く御礼申し上げます。次年度もご協力のほど、何卒よろしく願います。

大学院中間報告会の開催について

大学院運営委員長 桑田 啓貴

3月14、28日、4月4日(土曜日)の日程で大学院3年生(今回は計23名)を対象とした中間報告会を実施しています。例年、学位審査を受ける10ヶ月前を目安とし3月末に実施しています。大学院生の進捗状況の確認を目的としつつ、歯学研究科の教員とのディスカッションを通じて大学院生の研究能力涵養も期待されています。

ただし、審査員は各大学院生の研究内容について必ずしも精通しているわけではありませんので、発表の際は、わかりやすいプレゼンを心がけましょう。

中間報告会は歯学部独自の取り組みとして4年前より導入しましたが、年を追うごとに大学院生の研究発表が洗練されているように感じます。中間報告会に向けた各教室の指導環境が整い、綿密なプレゼンのブラッシュアップが行われているように見受けられます。最終学年での学位発表に向けた鍛錬の良い機会となるでしょう。

私は今月末をもって大学院運営委員長の役割を口腔衛生の弘中教授にバトンタッチいたします。今後は、大学院運営に関わる多くの先生のご尽力により、大学院の研究環境がますます良い方向に整備されていくことと思います。

退任のご挨拶

総合内科学部門 主任教授 井上 紳

令和2年3月31日をもって長らくお世話になった昭和大学を定年退職することになりました。昭和55年に昭和大学を卒業して以来40年間、主に高血圧や心疾患を中心に診療してまいりました。不整脈病理や動脈硬化、心筋梗塞や心筋疾患などの研究に従事してきましたが、平成7年から2年間、オランダ国アムステルダム大学の心臓病理研究室に留学する機会をいただき、研究のみならず彼の地のホームドクター制度や保健医療体制を知ることができました。現地でオランダ人歯科医師か



ら治療を受けたほか、スポーツ施設やホームパーティなどの交流で大いに視野を広げることが出来ました。帰国後は平成12年から旧豊洲病院内科勤務を命じられ、広く内科一般の診療に従事しましたが、平成17年から昭和大学歯科病院にて内科全般の教育および診療に従事することになりました。赴任当時の川和歯科病院長や宮崎歯学部長のご配慮のもとで全人的な診療にあたる診療体制の構築に努めました。今後は後任の木庭診療科長にバトンを渡しますが、歯学部総合内科学ならびに歯科病院内科クリニックへの更なるご援助、ご指導をお願い致します。また、昭和大学歯学部のさらなる発展をお祈りしております。

退職にあたり皆様に感謝致します

インプラント歯科学講座 教授 尾関 雅彦

今年の3月末日をもって昭和大学を定年退職致します。

私は東京医科歯科大学を昭和54年(1979年)に卒業後、同大学大学院で口腔病理学を学んでから同大学の第2口腔外科で外科治療の基本を学び、その後、昭和60年(1985年)4月に昭和大学歯学部第3歯科補綴学講座に着任しました。以来、瞬く間に35年が過ぎてしまいました。

着任当時の本学歯学部は新設歯科大学の雄としての活気に溢れ、どの講座においても新しい診療技術や歯科材料をいち早く取り入れて、旧設の歯科大学に追いつき追い越せという気概に富んでいました。また診療や研究においても自由闊達に取り組むことができ、そのお陰で前々年と前年にスウェーデンで学んだブローネマルク・インプラントを昭和63年(1988年)から本学歯科病院に導入し、今日に至るまで本格的に歯科インプラントの臨床と研究を行うことができるようになりました。

平成24年(2012年)にインプラント歯科学講座を開設してからは、歯学部4年生での講義と5年生での臨床実習(模型実習)においてインプラントの基礎から臨床までを学生にしっかりと教育することができ、他大学の関係者からは非常に羨ましがられる教育環境に従事することができました。

このように歯科インプラントの臨床、研究、教育に没頭することができたのも当講座の医局員はもとより、本学の多数の先生と関係者の方々の多大なご支援のお蔭と心から感謝しています。35年間の長きにわたり支えて下さいまして本当に有難うございました。



上條旗が岡賞を受賞しました

歯学部6年 田上 理沙子

この度上條旗ヶ岡賞を受賞しました昭和大学歯学部38回期生の田上理沙子と申します。上條旗ヶ岡賞を榮に浴し、先輩方後輩方に恵まれて過ごした有意義な日々を思い出しています。

私は6年間卓球部に所属しました。卓球部では全学部一緒に活動を行なっているため大所帯で、幸運な出会いにとっても恵まれていました。勉学においても優秀な方ばかりで、先輩方には特に勉学面で支えて頂きとてもお世話になりました。

全歯体でシングルス5連覇し、又全歯体総合2連覇に係ることができたのは良い思い出です。

今回上條旗ヶ岡賞を頂くことができたのは、沢山の方の支えのお陰だと思っております。

この6年間を過ごした昭和大学の卒業生として恥じないよう努力していきたいと思っております。どうかご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



科学研究センターの皆様にご心より感謝を申し上げます。昨年10月より歯科薬理学講座の助教として採用していただきましたので、研究だけでなく教育にも取り組み、昭和大学の発展に微力ながら貢献したいと考えております。歯学部の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

至誠塾修了式が開催されました

小児成育歯科学講座 杉山 智美

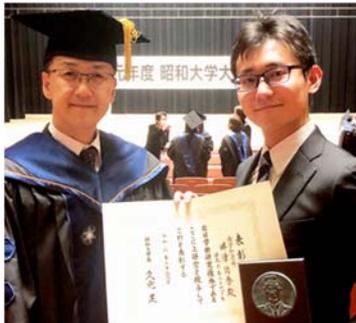


令和2年度昭和大学至誠塾(10回生)修了式が、3月11日(水)午後6時から1号館5階東会議室で開催されました。至誠塾は学校法人昭和大学の発展のために、教育職員だけでなく全ての職員を対象に、大学の経営や運営に関わることを広く学ぶ場として平成21年に開塾されました。修業年限は2年間で、1年目は講義および討論形式で実施され、2年目はテーマ別研究および発表形式で実施されます。私の在籍した10回生は18名で、2年間元気に18名で頑張ってきました。修了式では塾長である小口理事長から、2年次の研究テーマの紹介とともに修了証をいただきました。引き続き小口塾長から、修了生が各部署のリーダーとして大学の発展に努めてほしいと力強い告示があり、一同で昭和大学宣言と校歌斉唱をして閉式しました。今後も修了生18名が一丸となって本学の発展のために貢献できるよう、努力していきたいと思っております。

上條賞(大学院)を受賞しました

歯学歯科薬理学講座 畔津 佑季

令和2年3月24日の昭和大学大学院修了式において上條賞を賜りました。このような栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。私は電通大(学士課程)、東京工業大大学院(修士課程)を経て、昭和大大学院(博士課程)に進学し、歯科薬理学講座の高見教授のもとで研究に取り組んでまいりました。



今回の研究では、破骨細胞と骨芽細胞が蛍光タンパク質を発現する遺伝子改変メダカを使用し、グルココルチコイド(GC)がこれらの細胞に及ぼす作用をメダカが生きたまま観察しました。さらにGC受容体欠損メダカを作製してその表現型を解析しました(論文doi: 10.1016/j.biopha.2019.109101)。今後もゲノム編集技術を駆使した薬理学研究に取り組んでいきたいと思っております。

上條賞の受賞にあたり、これまで親身なご指導を賜りました高見正道教授や実験を直接指導してくださった茶谷昌宏講師、そして歯科薬理学講座および薬理

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 4月1日(水): 歯学部第4学年健康診断
- 4月4日(土): 歯学部第5学年健康診断
- 4月4日(土): 大学院入学式
- 4月6日(月): 歯学部第2学年健康診断
- 4月10日(金): 入学式

編集後記

歯科補綴学講座 三田 稔

厳しい寒さから一転、春風が快い季節となりました。コロナウイルスも蔓延しておりますので、皆様におかれましてはくれぐれもお気をつけ下さい。

末筆ながら、年度末のご多忙の折、皆様から多くの記事をご寄稿いただきましたこと、この場をお借りして深謝致します。